

林海庵さまお施餓鬼法要 平成30年 7月28日(土)

大本山増上寺布教師 慈眼院副住職 遠田憲弘

《本日のご讃題》法然上人のお言葉

「行は一念十念なお虚しからずと信じて、無間に修すべし。一念なお生まる、況や多念をや。」

「たった一遍や十遍のお念仏でも必ず往生が叶うと信じながら、絶え間なくお称えしなさい。たった一遍のお念仏でさえ往生が叶います。ましてや、生涯をかけてたくさんお称え出来た人は言うまでもありません。」

① 決して手放さず

○阿弥陀様のお誓い

阿弥陀さまはご本願に

「誰であれ、まことの心をもって深くこの私の誓いを信じ、極楽浄土に往生しようと願って、少なくとも十遍でも、私の名を称えたならば(お念仏をしたならば)必ず往生することができるとお誓いくださっている。」

☆このように阿弥陀さまという仏様、ご自身が誓ってくださいているからこそ、私たちは「南無阿弥陀仏」とお念仏をお称えすることでお浄土へと往くことができる。

☆一遍や十遍という少ないお念仏でも往生できる。

☆しかし法然上人はお念仏を絶え間なくお称えしていた。

② しっかりそなえる

○禅勝房さまの法然上人への質問

「阿弥陀さまは一遍とか十遍のお念仏でも必ず救う、往生できますよとお誓いくださっているのに、どうしてこのように絶えずお称えをするか。」

☆私たちは今称える、この一声のお念仏を最後にもしかしたら息絶えてしまうかもしれない。それは誰にも分らない。

だからこそ、この一声のお念仏でもって往生させて頂くんだ、私が唱えるこのお念仏の一声は往生させて頂けるお念仏なんだという思いで「南無阿弥陀仏」とお称えする。そういったお念仏を一声一声重ねて、生涯絶え間なくお称えすることが大切。

③ 阿弥陀さまといついかなる時も

○豊田愛山堂の創業者・豊田熊太郎さんのお話

☆人生の大晦日の瞬間もお念仏をしっかりとお唱え出来るように、いつ大晦日がやってきてもいいように、お念仏と出会うことができたなら、息をひきとるその瞬間まで決してやめず、毎日欠かさずお念仏をお称えすることが大切です。

私たちと共に、極楽浄土への往生を願いながら日々お念仏をお称えして参りましょう。